

		<b>学校教育目標</b> 知徳体の調和のとれた品性ある子の育成 チャレンジいっぱい 笑顔いっぱいの学校—
	すすんで考えを伝え合う子	思いやりを形で表す子

### 後期学校評価の結果のお知らせ

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、12月に実施しました「保護者アンケート」「教員アンケート」「児童アンケート」の結果を報告させていただきます。

#### 1 保護者アンケート

	お子さんの様子	前期 (%)	後期 (%)
1	お子さんは、学校は楽しいと思っている。	96	98
2	学校は、お子さんのことについて相談に応じてくれる。	99	98
3	お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	93	94
4	お子さんは、10分×学年の家庭学習をしている。	78	79
5	お子さんは自分からあいさつをしている。	86	87
6	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	92	95
7	お子さんは進んで体をよく動かしている。	88	87
8	お子さんの話や学校からのおたより等で、学校の様子がわかる。	93	88

#### 2 教員アンケート

	評価観点	前期 (%)	後期 (%)
1	児童は学校で楽しく過ごしている。	100	100
2	児童の様子を把握し、家庭への連絡や相談等、適切な対応を心がけている。	100	100
3	仕事に優先順位をつけ、効率よい働き方になるよう工夫している。	72	88
4	ねらい（育みたい資質・能力）を明確にした授業を行っている。	88	94
5	根拠・理由を引き出す授業づくりをしている。	82	94
6	児童は根拠・理由をつけて発表している。	71	75
7	家庭学習の習慣化を進めるため、宿題の内容を指導・工夫している。	94	87
8	あいさつ等、児童の自発的な活動を促すような場の設定や指導を工夫している。	89	92
9	児童は、自分から挨拶をしている。	50	65
10	児童が最後まで話を聞くように働きかけをしていますか。	100	100
11	児童は先生や友達の話最後まで聞いている。	67	65
12	子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	77	100
13	体育の時間やその他の時間で、目標を持って進んで運動に取り組めるよう働きかけている。	94	100
14	児童主体の特別活動になるよう、話し合い活動を充実させるよう指導している。	81	94
15	係や委員会の活動に責任を持って取り組めるよう働きかけている。	94	100
16	おたよりやHP等で児童や学校の様子を随時お知らせしている。	82	94

### 3 児童アンケート

	自分の様子	前期 (%)	後期 (%)
1	学校は、楽しいですか。	97	98
2	困ったことがあったら先生に相談できますか。	86	87
3	授業は、わかりやすいですか。	93	94
4	自分の考えを根拠・理由をつけて書いたり話したりしていますか。	78	79
5	10分×学年の家庭学習をしていますか。	91	85
6	自分からあいさつしていますか。	94	97
7	先生や友達の話最後まで聞いていますか。	95	95
8	いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしていますか。	89	92
9	目標を持って進んで運動をしていますか。	93	90
10	学校や学級をよくするために積極的に話し合に参加している。	90	91
11	係や委員会の活動を忘れずしっかり取り組みましたか。	93	91
12	お家の人と学校の話をしていますか。	91	85

### 4 分析と改善策

#### (1) あいさつ (思いやりを形で表す子)

前期同様、「顔を見て自分から挨拶ができる児童」をキーワードに、朝のあいさつ、授業のあいさつ、来校者へのあいさつ、帰りのあいさつなどを大切にしながら指導しています。児童は先生や来校者に自分からあいさつできている(97%)とされているようですが、保護者の皆様は(87%)、教職員は(92%)であり、子どもと大人ではやや隔たりがあります。挨拶の基本、「あいさつの必要性」や「マナー」について今後も継続して指導します。ご家庭でも、「自分から」をキーワードに、心の通い合う挨拶ができるようお声かけをお願い致します。



#### (2) 伝え合う (すすんで考えを伝え合う子)

授業中、「根拠・理由を引き出す授業づくりをしている(教員)」は前期より評価を上げ94%、一方で「自分の考えを根拠・理由をつけて書いたり話したりしている(児童)」は79%と前期と変わらない結果でした。教師は根拠や理由を引き出す授業を行ない、児童にも力がついてきているという実感もあります。ですから、児童の発言を意識的に褒めたり認めたりするなどして、根拠・理由をつけて話したり書いたりしているという自覚をもたせていきます。また、根拠として児童が示せるものを準備し、型を示したり問い返したりして考えは必ず根拠・理由のセットで持つ取組も継続していきます。そして、児童に「できている」「力がついた」と実感できるようにしていきます。



#### (3) 家庭学習

「10分×学年の家庭学習をしている」につきましては保護者は79%、児童は85%、「家庭学習の習慣化を進めるため、宿題の内容を工夫している(教師)」につきましては87%で児童・教師共に前期と比べ評価が下がっています。毎学期、設けている家庭学習強化週間の取組は継続し、内容の見直しや児童の実態に合った課題の工夫に尽力します。お子さんの宿題への取組の様子に目をかけていただき、褒めたり励ましたりの声かけ、また必要に応じて、手をかけていただきますと、意欲づけのきっかけとなります。自分で学習する習慣づけに繋がるよう、家庭と学校との連携を大切にしていきます。



#### (4) 笑顔いっぱいの特別活動 (粘り強く取り組む子)

係活動等につきましては、児童91%教師100%と高い結果となりました。さらにそれを支える「学校や学級をよくするための話し合い」につきましても児童・教師共には90%を越えました。運動会・6年生を送る会など全学年で関わる行事や、総合的な学習や生活科など学年独自の取組を行なう上で、「実行委員会」(児童が主体となって会を企画・運営する)を立て話し合う機会を設けた結果と捉えています。委員会や代表委員会とも連携し、児童が「笑顔いっぱいの学校」を目指すための話し合い活動の充実に努めます。



※ 前期同様に「学校は楽しいですか」の割合が高い結果となりました。「学校の楽しさ」は集団生活の場で味わうことのできるものです。例えば「みんなで協力したから達成できた」「〇〇さんに助けてもらった」など人との関わりから生まれるものです。「学校」だからこそ味わえる楽しさを実感できるよう教職員一同、児童への働きかけにより一層尽力していきます。また今後ともこの結果に満足せず100%を目指し工夫、改善していきます。ご心配やご相談などありましたら、いつでも学校へご連絡下さい。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

### 5 学校関係者評価委員会より (令和5年1月31日(火))

- ・児童に自分の挨拶は相手に伝わっているか意識させると良い。
- ・学校の様々な取組を地域が担うことはできないか、と言う視点を持つことが必要である。